

# 令和5年度自己評価シート(最終評価)

学校名 三次市立三次中学校

## 【経営理念】

ミッション(使命):「生徒の進路選択の幅の拡大と希望進路の実現」を図り、持続可能な地域を形成する人材を育成する。

学校教育目標 : 自律と貢献の志を持ち、主体的に進路を選択する生徒の育成

～ 一所懸命が好き! 夢と志を持ち 輝く 私たち ～

|     |     |       |    |              |
|-----|-----|-------|----|--------------|
| 達成度 | 達成値 | × 100 | 評価 | A ≥ 100      |
|     | 目標値 |       |    | 80 ≤ B < 100 |
|     |     |       |    | 60 ≤ C < 80  |
|     |     |       |    | D < 60       |

| 中期経営目標        |  |   |  |   |   |  |      |
|---------------|--|---|--|---|---|--|------|
|               | 短期経営目標   | 具体的な取組・方策   | 評価指標   | 目標値   | 評価  | 達成状況   | 担当部等 |
| 確かな学力の育成      | 1 主体的な学習による学力の向上   |   |  |   |   |  |      |
|               | 基礎学力の定着・向上   | ①市立三次中授業スタイル(SMP)を基盤とした学習者起点の授業研究の実施, 研究成果を各教科へ広げる取組<br>②学力調査, 定期試験を目標, 検証軸とした短期 PDCA サイクルによる取組<br>・課題把握に基づく具体的目標設定と取組<br>③課題発見・解決過程のある単元づくりの推進 | ・定期試験における知識・技能, 思考・判断・表現の観点達成率<br>・市学力検査(平均正答率と30%未満生徒の割合) | ・各教科の知識・技能60%以上, 思考・判断・表現力50%以上<br>・実施教科全てで経年比較において前年度を超える, 30%未満生徒のべ7% | D   | ・知識・技能60%達成76%, 思考・判断・表現50%達成60%。<br>・経年比で前年を上まわった教科は1/5, 30%未満, 1年8.7%<br>2年15.9% | 教務部  |
| 育成すべき資質・能力の向上 | ①特に育成を目指す資質・能力(「3つの力」)の継続的な育成・向上<br>・育成すべき資質・能力を, 生徒教職員が共有した各教科・領域・行事等への取組<br>・各教科・領域・行事等への取組における変容の検証<br>②各種検定, コンクールへの応募・挑戦<br>・各種検定(漢検・数検・英検等)やコンクール等への挑戦<br>・計画的なコンクールへの応募 | ・自校の質問紙「3つの力アンケート」<br>・総合質問紙調査(コミュニケーション能力・協調性・主体性, 成功体験と自信)<br>・各種検定受検生徒の割合  | 肯定的評価80%以上<br>3つの資質・能力にかかわる項目, 全国平均以上<br>延べ受検率50%以上        | B   | ・「3つの力アンケート」すべての項目で80%以上を達成<br>・協調性・成功体験は全国平均を上回ったが, 主体性・コミュニケーション能力は下回った。<br>・検定受検生徒67%(漢字検定29名, 数学検定20名, 英語検定41名) |  |      |

## 【評価結果の分析】

- ・「知識・技能」以上に「思考・判断・表現」の達成率が低い結果に終わった。また、一学期より二学期の方が達成率が低かった。1年生では「知識・技能」の達成率の低さが顕著で、基礎学力が定着していない現状である。また、2・3年生は「思考・判断・表現」の達成率が低く、2極化が顕著である。主体的に学びに向かう生徒と、そうでない生徒、あるいは家庭学習の習慣が身についている生徒とそうでない生徒の間に大きな差が見られる。学力到達度検査においては、1年生で、国語・数学・理科、2年生で数学、理科が全国平均を上回った。なお、2年理科は全国平均を5.6ポイント上回ったが、経年変化では0.4ポイント下回り、数学だけが前年度を上回る結果となった。全国平均を上回る教科がある中、通過率30%以下の生徒が増えているのは、学力の2極化と教科により得意・不得意の差が顕著であることも一つの理由であると考えられる。特に不得意教科については、主体的に学習に取り組む態度の通過率の低さが顕著であり学びに向かう態度を育成していくことが必要であると考えられる。
- ・資質・能力の調査では、自校アンケートでは肯定的な評価が目立ち、行事活動を中心として学校生活全般において、自己肯定感が育っている様子が見られる。一方、質問紙調査では特にコミュニケーション能力の部分に課題が見られた。学習活動の場面でコミュニケーション能力に特に課題があることから、行事活動等で得た自信を学習面につなげていくことが大きな課題である。自校アンケート、質問紙調査ともに学年が上がるにつれ数値が大きく向上しているので、教育活動全般の方向性は正しいと考えられる。

## 【今後の改善方策】

- ・学力向上のため、研究部を中心として授業改善に取り組む「①個に応じた授業実践」発展的な学びのための生徒へのしかけや基礎・基

本の定着のための生徒への手立てを行うなど、個の実態に応じた授業実践「②生徒に学びを選択・調整させる場の設定」適用題の工夫（ABC問題【A問題：本時の学習で学んだ内容とほぼ同じ、B問題：本時の学習の学びでの表現を少し変えたもの、C問題：発展的・入試を意識した問題】を与える。個に応じた問いを与え、評価する。）をすることで個の成長を評価し、認め、自己肯定感を高める。「③生徒の学ぶ意欲を向上させる仕掛け」定期試験の工夫（定期試験の問題を授業の内容100%にすることで、生徒にやればできる、やらないからできないという体験をさせる。）をすることで、授業や宿題に取り組む態度を改善させ、生徒の主体的な学びの向上につなげる。

- ・資質・能力の面は、学年が上がるにつれて向上していることを踏まえ、今後も学校生活全般を通して育てていきたい。特に、1年次から主体的に取り組む活動を仕組むこと、活動を通して目指す姿や育成する資質・能力を生徒一人一人に意識させて取り組むことを大切にしていきたい。各種検定については、来年度から英語検定の補助が復活する方向であり、さらに積極的に働きかけをおこなっていききたい。

| 2 社会性, モラルの向上 |              |  |  |  |   |   |       |
|---------------|--------------|--|--|--|---|---|-------|
| 豊かな心の育成       | 生徒指導諸問題の未然防止 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒指導規程の周知徹底と一貫指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導規程の全家庭への配布, 学校総会等での説明</li> <li>・生徒指導規程をもとにした全教職員での統一的な生徒対応 (特別な指導を含む)</li> </ul> </li> <li>②生徒理解と即時の組織的な対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談委員会, 生徒指導部会の定例化</li> <li>・スクールカウンセラーの積極的な活用</li> <li>・各学期における教育相談ウィーク及び生徒・保護者アンケートの実施</li> <li>・全職員による校内巡回及び生徒への肯定的な声かけ</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の状況と対応 (前年度比較)</li> <li>・不登校生徒数</li> <li>・諸問題認知解決 指導 100%</li> </ul>                           | 昨年度以下<br><br>昨年度以下<br><br>100%             | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ認知4件 (昨年度の同時期2件)</li> <li>・不登校生徒数7名 (昨年度の同時期5名)</li> <li>・問題行動7件 (生徒間暴力, 性に関する指導等) (昨年度の同時期は生徒指導諸問題7件)</li> </ul>  | 生徒指導部 |
|               | 生徒会活動の活性化    | <ul style="list-style-type: none"> <li>①日常的な委員会活動の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みよしっ子あいさつ運動」の実施</li> <li>・生徒会各委員会から2項目以上の企画提案</li> <li>・生徒会執行部会の定例化 (週1回)</li> <li>・部活動部長会の定例化 (月1回)</li> </ul> </li> <li>②人間磨きの場としての部活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の積極的参加と指導</li> <li>・生徒が自ら考え実行, 反省できる活動</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動実施状況 (各委員会からの企画, 実施)</li> <li>・生徒満足度</li> <li>・総合質問紙調査 (計画性・目標設定) 質問紙調査 (自己認識・社会性)</li> </ul> | 各委員会1回以上<br><br>肯定的評価80%以上<br><br>各項目80%以上 | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会の取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>①学級委員会 → あいさつ運動</li> <li>②生活委員会 → あいさつ運動, 服装点検</li> <li>③ボランティア委員会 → ペットボトルキャップ集め, バルマーク集め</li> <li>④図書委員会 → 本の貸出, 本の紹介放送</li> <li>⑤文化委員会 → 昼食時の放送</li> <li>⑥体育委員会 → 昼休憩ボール貸出</li> </ul> </li> <li>・「生徒会活動・学校行事への取組」肯定的評価81.9%</li> <li>・総合質問紙調査各項目の肯定的評価               <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画性 42.8%</li> <li>・目標設定 80.2%</li> <li>・自己認識 78.7%</li> <li>・社会性 77.0%</li> </ul> </li> </ul> | 生徒指導部 |

### 【評価結果の分析】

- ・生徒指導上の諸問題においては、1学期に2件の生徒間暴力、1・2学期に4件のいじめ事案、3学期に1件の性に関わる問題行動が発生したが、本人への指導及び保護者連携、関係機関との連携を行い、解決及び継続指導中である。これまで同様、校内巡回を積極的に行い、隙間時間を無くすとともに、積極的に生徒への声掛けを行うことで問題行動への未然防止につながっているもののSNSを通じて諸問題が発生していることが多く、昨年度より情報通信が可能な機器の利用についての全体指導（警察や少年サポートセンターからの講話）を実施しているが今後も事案発生が懸念される。
- ・不登校生徒及び長期欠席生徒については、担任を中心に、保護者、生徒とのつながりをきらさないように対応を行っている。また担任だけでなく、学年会や学校全体で情報共有を行うとともに、教育相談委員会で現状の取組や状況をもとにSCから今後の取組についてのアドバイスをもらい、見通しを持って取り組めるようにしている。
- ・いじめ認知については、ふざけて相手の筆箱を取り上げ、なかなか返さず、その結果、筆箱を取られた生徒が腹を立て暴力をふるった事案とSNSを通じて相手に誹謗中傷の内容を書き込む事案、美術で書いた他人の自画像を勝手に撮影し、勝手にSNSにアップした事案が発生しており、いじめ認知している。筆箱を取られた被害生徒は、事案による精神的苦痛や不登校には至っていないが、SNS

に誹謗中傷の書き込みをされた被害生徒や勝手に自画像をSNSにアップされた生徒は、事案発覚当初、精神的な不安から登校しづらい状況や教室に上がれず別室での学習を行う事があったが、しばらくするとこれまで通りの学校生活を送ることができている。全体的な取組としては、i-check やいじめアンケートを実施し、その結果をもとに、生徒全員の面談を各学年会中心に行った。

- 生徒会活動については、新執行部の活動から委員会前に企画書を委員長が作成し、各委員会活動や各行事に向けて計画的に取り組みを進めている。

### 【今後の改善方策】

- 生徒指導の諸問題においては、SNSの利用について、今後も定期的に関係機関と連携し、正しい活用についての講話や指導を行っていく。
- 不登校生徒および長期欠席生徒については、今後も担任を中心に行っていくが、学校全体で情報共有し取組を進めていく。
- いじめ認知については、引き続き、生徒全員の面談実施及び日常的に生徒への声掛けを行い、少しの変化も見逃さないようにする。
- 生徒会活動を充実させるために、これまで通り執行部会を定期的開催しながら新たな取り組みである企画書作成を継続的に進めさせる。

## 3 生活習慣の定着と体力の向上

|          |              |  |   |  |   |   |       |
|----------|--------------|--|---|--|---|---|-------|
| 健やかな体の育成 | 基本的な生活習慣の充実  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生活づくり週間の取組の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験期間中に生活づくり週間の取組を行う。(起床時刻、就寝時刻、学習開始時刻の三点と、学習時間、メディア利用時間、朝ごはん摂取)</li> </ul> </li> <li>②①の結果について資料を作成し、保護者啓発を行う。</li> <li>③みよし学園健康教育部会の取組を三次中学校区で共通して実施する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>三点固定が定着した生徒の割合(生活アンケート)</li> <li>メディアコントロール実施達成率(生活アンケート)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>70%以上</li> <li>肯定的評価60%以上</li> </ul>          | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケート「三点固定が定着してきている」生徒…71.8% (7月56.3%)</li> <li>保護者…63.9% (7月63.1%)</li> <li>「メディアの利用時間の短縮に取り組んでいる」生徒42.7% (7月66.4%)</li> <li>保護者…29.6% (7月28.2%)</li> </ul>                                     | 健康安全部 |
|          | 健康安全意识と体力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①体力づくりの工夫・充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健体育の授業における工夫・充実</li> <li>・主運動と関連付いた体づくり運動の計画的実践</li> <li>・新体力テストのフィードバックと個々の体力に応じた運動プログラムづくり</li> <li>○運動部活動における体力づくり</li> </ul> </li> <li>②安全教育の工夫・充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会等を活用したけがの予防に係る安全指導</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力調査(国・県平均以上の生徒割合)</li> <li>・スポーツ振興センター災害共済利用割合</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>B評価以上の生徒が50%以上</li> <li>前年度比±10%以内</li> </ul> | C | <ul style="list-style-type: none"> <li>4月に実施した体力・運動能力調査の結果(B評価以上の生徒の割合)41.9%</li> <li>男子：30%</li> <li>女子：55.9%</li> <li>スポーツ振興センター災害共済利用件数28件</li> <li>(R4年度 23件)</li> <li>(R3年度 28件)</li> <li>(R2年度 16件*)</li> <li>※()内は前年度の同時期</li> </ul> | 健康安全部 |

### 【評価結果の分析】

- 体力・運動能力調査において、全体での総合評価B以上の生徒の割合は、目標である50%以上に到達していない。また、昨年度に比べて減少している。(44.4%→41.9%)
- 体力の二極化が見られ、特に1年生男子においてその傾向が顕著にみられる。また、下位層が厚い。(A・B評価：12.5%、C・D評価：58.4%)
- アンケートにおいて、「運動することが好き」と回答している生徒の割合が85%と高く、運動やスポーツをすることに肯定的な捉えをしている。
- 学校生活アンケートの結果から、三点固定が定着している生徒の割合は、71.8%だった。7月と比較すると生徒の肯定的回答が増加している。毎年2回ずつ実施している生活づくり週間の取組により、三点固定の意識はできているようだ。
- メディアの利用時間について「短縮を意識している」という生徒の割合は、42.7%で保護者の割合29.6%と比較すると、回答の差が大きかった。
- 今年度(1月末現在)のスポーツ振興センター災害給付金の対象件数は28件だった。昨年度に比べて5件増加した。体育の授業中の怪我では、外遊びでの経験が少なく慣れない運動ではうまく体を操ることができないためケガにつながっている傾向がある。休憩時間中の怪我は減少している。

### 【今後の改善方策】

- 年間2度の調査を行い、その比較・分析をさせることにより、自己の体力の向上を実感させ、体力向上に対する意欲喚起を行う。

- ・下位層の生徒に焦点を当て、手立てを工夫する。
- ・課題である上体起こし・立ち幅跳びの向上に向け、準備運動時の筋力トレーニングの導入や、敏しょう性に特化した運動を取り入れる。
- ・生活アンケート調査では、12時以降に就寝している生徒は2割を超える。10時までには就寝している生徒は2割に満たない。学年別で見ると、学年が上がるにつれて就寝時刻が遅くなっている。ゲームやスマホ等の利用時間が長く、十分な睡眠時間や学習時間が確保できていない状況がある。教務部と連携し、帰宅後の時間の使い方等を指導していくとともに、「ストップ9」の取組をPTAと連携しながら進めていきたい。
- ・家庭でのゲーム・スマホの利用について、子ども任せになっている実態がある。家庭でのルール作り等の協力を得られるような働きかけが必要である。一人一台端末が与えられる中、利用時間を自分でコントロールする力がより一層求められる。適切な利用についての指導を合わせて行っていく必要がある。
- ・みよし学園健康教育部では、メディアコントロールの啓発を続けている。今年度作成した睡眠についての資料を活用し全校朝会で指導した。今後も健康課題の解決に向けて取り組みを継続していく。

| 4 本市の代表校としての関心度・信頼度の向上 |                |   |   |                        |  |     |
|------------------------|----------------|---|---|------------------------|--|-----|
| 信頼される学校                | 小中一貫教育の充実      | <ul style="list-style-type: none"> <li>①校区を教材化した、まちガイド実施を柱とした教育課程の展開</li> <li>②小学校と連携した児童生徒交流活動の計画実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルカリキュラムの生徒満足度</li> <li>・オリジナルカリキュラム実施率（まちガイド展開プログラム）</li> </ul> | 70%<br><br>全学年実施       | <b>A</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生，2年生の総合的な学習の時間では，地域の方々を講師に迎えての地域学習を行った。3年生は，榎原淳幹先生を講師に迎えて，地域・保護者・在校生・校区内の小学校6年生を招いて立志式を行った。</li> <li>・校区内一斉ボランティア活動を保護者・地域の方々とともに実施した。「ボランティア活動は人のために役立つと思う」生徒90.0%</li> </ul>           | 総務部 |
|                        | 学校への満足度・信頼度の向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校，学年（学級），保健，生徒指導等の各種通信の計画発刊とホームページ更新               <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上</li> </ul> </li> <li>②各種メディアを通じた積極的情報発信</li> <li>③学校運営協議会を核とした日常的な連携</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に入学してよかったと思う生徒・保護者の割合</li> <li>・保護者・地域関係者の学校支援活動参加数</li> </ul>    | 90%<br><br>保護者数のべ70%以上 | <b>B</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校に入学してよかった」学校生活アンケート               <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒 93.6%</li> <li>保護者 92.5%</li> </ul> </li> <li>・文化祭の参加率は79.8%，11月授業参観は，43.3%，1月授業参観は，44.8%の参加があった。</li> </ul> | 総務部 |

#### 【評価結果の分析】

- ・みよし学園（小中一貫事業）における交流活動として、合同のあいさつ運動や、ボランティア活動を実施することができた。また、三次中オープンスクールや出前授業も例年通り行うことができた。
- ・コミュニティ・スクールにおいての地域との連携を活かし、総合的な学習を中心に地域の方々を講師に迎えての活動を積極的に行っている。
- ・「本校に入学してよかった」と回答した生徒は最終評価（93.6%）であった。また、保護者の最終評価（92.5%）と高い水準を保っている。
- ・各種通信やTetoruによる情報発信は月1回以上実施している。ホームページ更新も担当者が定期的に更新している。

#### 【今後の改善方策】

- ・今後も、保護者、地域からの学校教育活動に対する支援を頂けるよう、各種通信やメディアを通じた情報発信を続けるとともに、保護者が来校できる機会を設けて学校への満足度・信頼度の向上を図る。